

令和6年度（2024年度）学校版環境ISOへの取組

< 学校名：水俣市立袋中学校 >

2 取組の概要報告

(1) 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言	 <p>写真Ⅰ</p>	<p>昨年度の成果(例:バケツを使った掃除の実施)や反省点(例:節電が十分にできていなかった)より、宣言項目の見直しを行い、生徒総会で提案を行った。可決された宣言に、各学級の話し合いで決定したそれぞれの取組項目を加え、ISO(SDGs)宣言項目として掲示した。この宣言を生徒や教職員が目にしやすい場所に掲示することで、意識の向上を図った。</p>
行動	 <p>写真Ⅱ</p>  <p>写真Ⅲ</p>  <p>写真Ⅳ</p>  <p>写真Ⅴ</p>  <p>写真Ⅵ</p>	<p>①地域のごみ分別収集活動への参加（写真Ⅱ）</p> <p>水俣市では、月に1回、地区の資源ごみ回収日があり、その際、中学生は「もやい直し」の一環として地域の方々とともに分別活動に取り組んだ。活動をより充実させるため、環境ボランティア委員会は、活動前に回収日の予告や呼びかけを行い、事後には活動状況をまとめて掲示した。</p> <p>②学級花壇（野菜作り）の手入れ（写真Ⅲ）</p> <p>毎週水曜日の朝、各学級で花壇の手入れを行った。野菜を育てる過程で、土壌の大切さや季節、天候の影響について学び、自然と共生することの大切さを考える機会とした。また、手入れを通じて計画的に行動する責任感を養い、クラスメートと協力して一つの目標を達成する経験を積んだ。</p> <p>③干潟のクリーンアップ作戦（写真Ⅳ）</p> <p>10月と1月の2回、袋湾を中心とした地域の自然環境を守り、環境保護への意識を高めることを目的に、袋湾の干潟で清掃活動を実施した。10月は生徒のみで活動したが、1月は地域の方々やPTAにも参加を呼びかけた。集めたごみは学校に持ち帰り、分別作業にも取り組んだ。</p> <p>④リサイクル回収ボックスの設置（写真Ⅴ）</p> <p>ごみの削減と3Rへの意識向上を目的に、各教室に不要紙の回収ボックスを設置し、リサイクルコーナーにはコンタクトケースと使用済みペンのリサイクル回収ボックスをそれぞれ設置した。また、定期的に回収量を競うクラスマッチを実施し、生徒の意識を高める取組を行った。</p> <p>⑤使用電気・水道料の掲示（写真Ⅵ）</p> <p>昨年度、誰もいない教室の電気が点いたままだったり、蛇口が完全に閉まっていない状況が見られたりしたため、学校全体で省エネルギーと節水の意識を高めるため、学校施設内で使用された電気と水道の使用量を前年度と比較し、その結果を表にして全校に提示した。</p>

記録	 <p>写真VII</p>	<p>①ごみ分別収集活動への参加率の掲示（写真VII）</p> <p>目標を毎月設定し、活動後には地区ごとの達成率を集計して結果を掲示することで、生徒の参加意欲の向上を目指した。</p> <p>②個人の達成状況の記録と掲示（写真I）</p> <p>毎月初めに、チェックカードを配付し、宣言項目に対して4段階で自己評価を行った。その後学級ごとに達成状況を集計し、折れ線グラフにまとめて掲示した。</p>
見直し	 <p>写真VIII</p>  <p>写真IX</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のごみ分別収集活動について、生徒だけでなく新しく入ってきた教職員にも十分な理解が浸透していない様子が見られたため、改めてその歴史や意義を共有するための集会を開催し、共通認識を深めた。（写真VIII） ・学級花壇の手入れに関して、意欲や理解に差が見られたため、一人ひとりに畝を割り当てたり、ポスターを作成したりして、参加意欲を高める工夫を行った。 ・干潟の清掃活動は長い歴史を持つ一方で、マンネリ化も見られるようになったため、活動の成果や干潟の生き物に関する情報を校内放送やZOOM配信を活用して共有した。これにより改めて、生徒が環境保全に主体的に取り組む意識を高めることを目指した。（写真IX）

(2) 成果と課題

成 果	課 題
<p>○毎月のISOやSDGsに関する宣言の振り返り、地域のごみ分別収集活動への参加、さらには使用した電気や水の量を掲示する取組を通じて、生徒たちのSDGsに対する意識や理解が少しずつ良い方向に変化してきている。</p> <p>○雨天や休日など参加が困難な状況下でも、生徒は責任を持ち、ごみ分別収集活動に主体的に取り組むことができた。</p> <p>○袋湾の干潟の清掃活動では、実行委員会の働きかけもあり、2回目の活動では1回目よりも意欲的にごみ拾いに取り組む生徒が増えた。また、収集したごみの分別や道具の片付けにも、主体的に取り組む姿勢が見られた。また、PTAや地域の方々にも呼びかけ、交流を深めながら活動を行うことができた。活動を通して、自然の大切さを学ぶ良い機会となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度、掃除の時間にバケツを利用した節水の取組を行い、高い達成率を記録した。そのため、今年度はこの項目を外したが、徐々に手洗い場で直接洗う生徒が増えてきている。掃除コンクールの機会を活用し、改善を図りたい。 ●花壇の手入れについては、学年ごとに意識の違いが見られ、季節によっては参加者が少なく作業が進まないこともあった。活動を通して、命の大切さや、環境美化の重要性を感じられるようにしたい。 ●ごみ分別収集活動への参加率がなかなか向上しない。地区ごとに取組の時間が異なるなど、学校で把握できていない点も多い。今後は地域との連携をさらに密にしていく必要がある。 ●移動教室などで教室を空ける際、冷暖房や電気がつけっぱなしになっていることがあり、エネルギー削減が十分に進んでいない。